

単元名:オープン・キャンパスに出かけて、留学生と交流しよう

科目名	韓国語	作成日	-	作成者	プロジェクトメンバー
学年／年次	-	クラス人数	-	使用教科書と課	-
話題分野	日常生活	言語レベル	4	必要時間数	8時間

I 単元目標

韓国からの留学生にインタビューし、日本での日常生活の中で思うこと、困っていることを聞き、解決方法を考えて、留学生の日常生活に役立つパンフレットを作ることができる。

	言語	文化	グローバル社会	学習者	教室外	他教科
わかる						
できる						
つながる						

言語領域	文化領域	グローバル社会領域
◆留学生に質問するインタビューシートを作成することができる。 ◆自己紹介をしながら、インタビューシートにそって留学生にインタビューすることができる。 ◆留学生からのアドバイスをきいて理解することができる。 ◆パンフレットを作り、留学生にお礼のことばとパンフレットを送ることができる。	◆留学生の悩みや不満、困っていることを通して、お互いの文化や生活習慣の違い、共通点、背景を考えることができる。 ◆文化や生活習慣の違いから生じる留学生の悩みを洗い出し、留学生に理解を深めてもらう方法について模索することができる。 ◆文化摩擦を解消し、良好な留学生活を送るためのアドバイスを考えることができる。 ★学習者のコミュニケーション能力レベルに応じて、日本語の助けを借りて行ってもよい。	◆日本にいる外国人留学生の数や留学スタイルなどについて知り、教育の国際化やグローバル化について考えることができる。(知識理解) ◆留学生が抱えるだろう悩みやトラブル、それらを解決するためのサポート体制や対応策を予想し、実際と比較・検討することができる。(高度思考) ◆家族や教師、その他大人の力を借りて、具体的で有効な解決策を考え、親切的なパンフレットを作成する。(情報活用) ◆日本にきている韓国留学生と交流の場を作り出すことができる。(社会貢献) ★学習者のコミュニケーション能力レベルに応じて、日本語の助けを借りて行ってもよい。

コミュニケーション能力指標	【日常生活】 4-a. 困っていること、悩んでいること、不満に思っていることなどを、打ち明けたり、聞いてあげたりできる。 4-b. 日常生活で起きたハプニングや失敗談を披露できる。 【自分と身近な人びと】 3-c. 自分の経験(うれしかったこと、つらかったこと、感動したことなど)について、語りあったり、書いて伝えたりできる。 ★言語領域の「できる」の目標を設定する際に参照した指標。他の領域の目標設定とも連動している。 数字は【言語レベル-指標表番号】を表示している
---------------	---

Ⅲ 学習活動と評価	
プレコミュニケーション活動（語彙・表現習得活動）	学習を助けるための評価（形成的評価）
◆「もし留学したら」という設定で、起こりうるトラブルや悩み、不安などを予想し、どう解決するか話し合ったり調べたりして、項目ごとに「留学生トラブル解決カード」を作る。【4-a】 ◆普段の日常生活の中で、悩みやトラブル、ストレスになっていることなどを、相談者とカウンセラー役に分かれて、ロールプレイをする。【4-a,b】 ★【 】内は対応するコミュニケーション能力指標	◆留学生に質問するインタビューシートの内容を考え、話し合っ、作成する。（協働力、想像力、積極性、質問の適切さなど） ◆留学生にインタビューできる機会を探し、交渉して、その場を設ける。（情報の収集力、交渉力、適切な依頼の仕方など） ◆インタビューの結果を報告し合い、他の人の協力を得ながら、解決方法を考える。（文化の違いの比較や許容、アドバイスの適切さ、熱意など）
コミュニケーション活動（学習シナリオ）	
<場面状況> M高校では、大学のオープン・キャンパスを利用して、そこに在籍する留学生に日常生活に関するインタビューをし、その結果をもとに「留学生生活、悩みの相談室」パンフレットを作成することになった。 <活動の流れ> 進路室の資料やインターネットを利用して、留学生を受け入れている近隣の大学を探す。オープン・キャンパスへの参加を申し込み、その際に予め留学生にインタビューしたい旨を伝え、紹介してもらう。また、大学に留学生のための手引き、支援体制に関する資料があれば、事前に取り寄せて、読んでおく。自分たちがもし留学したら日常生活にどんなトラブルや問題、不安があるだろうか、またどう解決したらよいか、グループで話し合ったり調べたりして、インタビューシートを作成する。 当日は自己紹介し、インタビューシートに沿って、留学の目的や普段の生活の様子、日本の印象、悩み事などを尋ねる。また、自分たちがもし韓国に留学した場合、日常生活で気をつける点など、アドバイスをもらい、メール等の連絡先を交換しておく。 インタビューの結果をクラスや家庭で報告したり、話し合ったりして、どのような解決法があるか、友人・家族・先生からもアドバイスをもらい、「留学生生活、悩みの相談室」パンフレットを作り、インタビューした留学生にお礼のこたばを添えてパンフレットを送る。 ヒント👉 ◆留学生と直接会って交流する場がない時は、留学生役と日本人役に分かれて、インタビューのロールプレイを行う。	
<目標達成度を測る全体的評価（総括的評価）> ◆留学生の日常生活で、役に立つパンフレットを作成する。（わかりやすさ、内容の豊さ、表現の適切さなど）	
<使用教材・教具> パソコン、インターネット	
教室外（人・モノ・情報）との連繋	他教科の内容との連繋
進路室、近隣の大学、留学生、家族や友人ほか	